

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年5月7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100978		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム 大洗	ユニット名	一の館
所在地	〒311-1311 茨城県東茨城郡大洗町大貫町長峰2922-1		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0873100978-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年11月22日	評価機関 確定日	平成26年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設して10年が過ぎ、入居者の方も少しずつ介護度が高くなっているのが現状ですが、日頃から母体である病院と連携を取り、重度化しても安心して生活できるようにご家族と話し合いながら支援の方法を考えています。一人一人の個性や状態を把握し、できるだけ今の状態を維持しながら穏やかに暮らして頂けるよう取り組んでいます。施設内での生活が多くなりますので広い中庭を利用し、季節の花や野菜を育てたり、日々レクリエーションや行事に力を入れ、入居者様が気分転換できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体が病院であるため24時間の医療連携体制や協力体制が整っている。
管理者を中心に職員同士のコミュニケーションが良く図られており、長期休暇の職員が出ても職員同士が補って協力し合い、10年以上退職者がいない事業所である。
職員は利用者や家族等と馴染みの関係を築き、利用者が安心して暮らして頂けるよう支援している。
代表者の方針で食べることを大切にしており、献立は法人の栄養士が作成し、利用者の希望を取り入れた行事食も取り入れるなど、美味しくバランスの取れた食事を提供して食事が利用者の楽しみとなるよう支援している。
事業所の献立は、同じ食事を摂っている職員の間でも評価が高く、事業所の自慢となっている。
事業所専用の車両が無いのでドライブなどの外出は少ないが、管理者は保育園児やボランティアを受け入れて利用者が外部の人々とふれ合える機会を設けたり、日々のレクリエーションにミュージックケアを取り入れたりして、利用者が楽しく過ごせるよう工夫している。
利用者が野菜や花を育てることができるよう事業所の敷地を耕して自家菜園を作ったり、ハサミも自由に使用できるよう支援し、居室でハサミを使いながらクリスマスの飾り付けを作るなど、自由に生活ができるよう支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所独自の理念を玄関に掲示し、職員が常に意識しながらケアに努めています。「自分らしく生きる」の他に震災後、職員全員で考えた「地域の方と共に考え、協力し穏やかに暮らす事が私たちの望み」が新しく加えられた。	法人本部の理念とは別に、「地域の方と共に考え、協力し穏やかに暮らす事が私たちの望み」との地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、管理者と職員で行う月例会議で確認し合い、共有して実践につなげている。 法人本部の理念と事業所の理念を玄関と居間の壁面に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児、中学生の体験学習、ボランティアの訪問等の他、散歩の時に会う地域の方たちに積極的に挨拶を交わし、会話を楽しむようにしている。	2ヶ所の保育園から園児が来訪して利用者の肩たたきをしたり、手遊びじゃんけんなどのゲームをしたりしてふれ合っている。 中学校の職場体験学習を受け入れ、終了時には生徒が利用者とのふれ合いの中で感じたことを文章に書いて読み上げるほか、後日、学校を通じて生徒からのお礼の手紙が届いており、職員は手紙を玄関に掲示し、利用者や来訪者がいつでも読むことができるようにしている。 大正琴のボランティアは演奏だけでなく、唱歌の曲当てゲームをしたり、有資格者によるミュージックケアをおこなったりして利用者と交流している。 10月には利用者と職員で大洗健康福祉祭りに出かけ、利用者は買い物を楽しみながら地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度実施している運営推進会議の中で、行事の実施状況や家族へのお便りを通して、入居者様への関わり等を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日々の様子や、毎月行われている行事等を報告し、地域の方やご家族の意見を参考にして、ケアに生かすようにしている。民生委員の方にボランティアを紹介して頂いたことがあります。	運営推進会議は2ヶ月に1回町職員や大洗町地域包括支援センター職員2名、民生委員、地域住民の参加を得て開催し、利用者の生活の様子や運営状況、行事の報告などを行っている。 これまでは1ヶ所の保育園と交流があったが、委員から紹介を受け、別の保育園からも年1回訪問してもらえるようになり、2ヶ所の保育園と交流が持てるようになるなど、会議をサービスの質の向上に活かしている。 町職員より「幼稚園児や小学生との交流は利用者にとって望ましく、子ども達の情操教育にもなる」との評価を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者に入居状況等を報告し、日頃から連絡を取り、また実状を伝え協力関係を築いている。管理者は町の定例会議に出席し、町や他事業所との連携を深めている。	運営推進会議に町職員と地域包括支援センター職員が毎回出席している。管理者は町職員が運営推進会議で事業所を訪問した際や、毎月開催される大洗町介護保険関連事業所会議に出席した際に、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えるほか、連絡を密にして協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険を回避する為、玄関の施錠は家族等に状況を説明し、ご理解を頂いている。事業所としては身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ない場合、（介護服・ミトン使用）ご家族に説明し承諾を得てから行っている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成し、職員は身体拘束の内容とその弊害を理解しているが、研修を実施するまでには至っていない。現在、家族等の依頼を受けて異食をしてしまう利用者につきなぎ服を着用しているが、家族等からの同意書を作成するとともに、定期的に解除に向けて話し合うほか、経過観察記録を作成している。事業所の玄関は幹線道路に面しているため、利用者の安全を考えて家族等の承諾を得たうえで施錠しているが、居室からは広い中庭に自由に出入りができ、抑圧感のない生活をしている。	身体拘束排除に向けた研修を定期的実施するとともに、安全を確保しつつ利用者の自由な暮らしの支援に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修を行い、虐待防止の徹底に取り組んでいるが、気付かないうちに心理的虐待を行っているか、日頃から職員同士で話し合い、言葉づかい等に注意するよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の研修を元に、資料を各ユニットに配布し、それぞれが理解を深めていくように努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にはサービス内容、利用料金や解約方法等の説明を十分に行い、理解・納得の上、署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、面会時には近況報告だけでなく施設に対する意見や要望を聞き、運営に反映している。	玄関に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 利用者からは日常の問いかけや会話の中から要望を聴いており、「夜間トイレのドアを開閉する音がうるさい」との意見を受け、トイレのドアをカーテンに変更している。 家族等からは来訪時や電話連絡時に話を聴くほか、「介護サービス計画書」発送の際に意見欄を設けて送付し、意見等の汲みあげに努めている。 これまでは、家族等に事業所の行事結果のみを報告していたが、家族等から「事業所の行事に参加したいので事前に知らせて欲しい」との要望が出たため、行事予定を玄関に掲示したり、事業所便りに掲載したりして要望に応じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例会を行い、意見交換を行っている。毎朝の申し送り時にも職員の要望や問題点を話し合える環境をつくっている。	管理者は月1回の定例会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けるとともに、日頃から何でも話せるようコミュニケーションを図っている。 管理者は職員から出た意見や提案をその都度話し合って運営に反映させており、職員の提案を受けて希望休を月2日取り入れることにより働き易くなったり、不具合が生じたシャワーチェアや炊飯器を買い換えたりしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に無理のないローテーションを組むように努め、いつでも対応できる人数のもとで勤務できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町の研修会や法人外の研修への参加を積極的に勧め、職員のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大洗町の包括支援センターを中心に、年間10回の交流、会議、勉強会があり、参加することによりサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報をもとに、本人の要望に沿った支援ができるようにし、新しい環境で安心して生活できるようにコミュニケーションを密に取りながら「何でも話せる」関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族の要望や思いをしっかり聞き不安を少しでも解消できるよう心がけている。また家族とは連絡を密に取りながら、話し合いの時間をできるだけ多くつくれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や家族の要望等を十分に聞き、今何が必要なのか話し合いながら、決定している。また、他病院への継続受診等、必要な時には対応できるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ等の軽作業が行えるよう支援している。作業を一緒に行いながら入居者様からは昔の話や日常会話の中に教えられることが多く、さりげない労いの言葉に元気を頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはくつろげる環境を提供し、家族の要望や意見をその度聞き、日頃のケアに生かせるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの人の面会は入所年数が長くなるにつれ無くなってきている。法事やお彼岸に墓参りに行く入居者は数名いる。	利用者の家族等や親戚及び知人が来訪した際には好きな場所でゆっくり話ができるよう管理者や職員は配慮している。 利用者は携帯電話や共用空間にある公衆電話で家族等や知人と自由に話をしており、電話をかけられない利用者や手紙のやり取りには職員が支援している。 馴染みの店での外食や墓参りなど、利用者の希望を家族等に伝え、家族等と一緒に出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶、レクリエーション等、入居者同士が仲良く会話できるような雰囲気づくりを心がけている。また入居者が孤立しないよう絶えず見守り・声掛け行い、トラブルには迅速に対応し、不満やストレスの軽減に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の病院や施設に入院又は移動された場合、お見舞いや面会をし、相談や支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望や思いには日々の関わりの中で把握するように努め、日誌に記録している。意志表示のできない入居者には家族の希望やこれまでの生活を振り返りながら職員間で話し合うようにしている。	職員は利用者の生活歴を把握するとともに、会話や表情等から思いや意向の把握に努め、信頼関係を築きながら利用者の思いにそった支援ができるように努めている。 利用者一人ひとりに畑が割り振られているが、畑仕事が好きな利用者のため、広いスペースで自由に作物を育てられるよう敷地内の芝生を耕し、収穫物は食材に活用している。 思いを表せない利用者には家族等から話を聞いたり、利用者の表情やしぐさから思いを汲み取るよう努め、職員で話し合っ利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に十分な聞き取りを行い、情報収集に努めている。前施設や居宅サービス事業所からの情報提供書も重要である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌・申し送り、朝礼等で常時話し合い、入居者一人一人の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れながら、サービス担当者会議で意見交換を行い、本人にとっていちばん良いケアを模索しながらケアプランを作成している。モニタリングも同様である。	介護計画は利用者や家族等の意向や要望を聞くとともに、カンファレンスを行い、計画作成担当者が作成している。 モニタリングを実施して3ヶ月毎に介護計画を見直しているほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。 介護計画は家族等に送付したり、家族等の来訪時に面談したりして確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録を記入し、職員間の情報の共有化はもとより、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人全体で連携を取りながら、その時にいちばん適切なサービスが提供できるように協力体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる行事参加、保育園・中学校との交流等の他、面会時のご家族同士のおしゃべりも楽しみのひとつとなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医は、本人と家族の希望する病院となっているが、ほとんどが同系列の病院を受診している。歯科は訪問受診であるが、眼科・婦人科は家族によって受診をお願いしている。	利用者や家族等が希望する医療機関での受診を支援し、適切な医療が受けられるように支援している。 家族等が受診に付き添う場合には、利用者の状態を記載したメモを渡し、適切な医療が受けられるように支援している。 受診結果は家族等から報告を受けるとともに、かかりつけ医が直接電話で報告してくる場合もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師がいない為、母体である病院の訪問診療時や外来受診の折に相談をし、適切な対応ができるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し情報提供している。系列病院の為、度々面会に行き担当看護師と情報交換をし、早期の退院ができるよう働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族・医師と話し合い、家族の希望を尊重しながら、支援の方法を考えている。看取りに関しては現在の方針では行っておらず、同系列の療養型への移動も対応する。	事業所は看取りをしない方針で、「グループホーム大洗における重度化・看取りに関する説明及び同意書」を作成し、できることとできないことを明確にして契約時に利用者と家族等に説明して同意を得ているが、指針を作成する前に契約を交した利用者や家族等には、これから説明して同意を得ることとしている。 重度化した場合の対応マニュアルを作成したり、職員研修を実施したりするまでには至っていない。	重度化した場合や終末期の事業所の対応指針をまだ説明していない利用者や家族等には、早急に説明して同意を得ることを期待する。 重度化した場合の対応マニュアルを作成するとともに、利用者の重度化に向けて職員研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各入居者の緊急連絡先を作成し、ユニット毎に電話の側に掲示している。定期的な訓練は行っていないが、訪問診療時、看護師に応急処置の仕方や対応を聞き学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。震災後、勉強会を開きマニュアルを作成し、各ユニットに掲示している。また食料・飲料水を備蓄している。	年1回消防署立会いの総合訓練を実施しているほか、夜間想定を含めた事業所独自の避難訓練を年1回実施しているが、避難訓練の結果を記録に残すまでには至っていない。 職員は、町が指定している災害時の避難場所まで実際に歩いて経路を確認し、災害毎の経路をシュミレーションしている。 緊急連絡網を事務室に掲示している。 事業所の近隣には住宅が無い為、避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて米や缶詰のパン、ゼリー、栄養ドリンク、飲料水を備蓄するとともに、災害時には地域住民宅の井戸水を使用させてもらえることになっている。 懐中電灯や衛生用品が入っている防災リュックをユニット毎に用意をしている。	災害時に協力が得られるよう、運営推進会議で委員に避難訓練への参加を働きかけ、協力体制を築くことを期待する。 避難訓練の結果を記録に残し、反省点を話し合っって次回の訓練に活かすことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴介助等、場面に応じた言葉かけやさりげない対応に心がけている。特に排泄の失敗等の時は自尊心を傷つけないよう細心の注意を払っている。	職員は利用者に対する呼び方や言葉遣いに気を配り、人格を尊重した対応をしている。トイレ介助や入浴時には誇りやプライバシーを損ねないように対応し、排泄の失敗時にはさり気ない言葉かけでトイレへ誘導をしている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管して情報漏洩に留意しているが、利用者や家族等から広報誌や事業所内の写真掲示への同意を得るまでには至っていない。	写真を掲示したり広報紙へ掲載する場合は、利用者や家族等の同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から言葉かけを多くし、信頼関係を築き、自分の気持ちが言えるよう支援している。一人一人のレベルに合わせて会話しているが、意志表示ができない入居者には表情や行動に表れるサインに気づくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで生活できるよう支援しているが決められた時間の中での生活の為、難しい一面もあります。入居者が何をどうしたらいいか迷った時は、本人の気持ちを大切に、柔軟に対応できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度理容を行い、本人の希望の髪型にしている。服を自分で選ぶことができる入居者は、その日の気分で着替え、おしゃれを楽しんでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニューは決まっているが、行事の時は入居者の希望を反映した献立にしている。今年庭でできたスイカをおやつに食すことができた。尚後片付けやテーブル拭きは職員と共にやっている。	職員は利用者と一緒と同じ食事を摂り、会話をしながら楽しく食事ができるように支援している。 献立は法人の栄養士が作成し、職員は届いた食材で調理をしている。 行事食を取り入れたり、自家菜園で収穫した野菜を食材に取り入れたりしており、おやつに採れたてのトマトやスイカを提供するなど、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。 利用者は能力に応じて食材の皮むきや下膳、テーブル拭きなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で、バランスのとれた食事を提供している。食事や水分の摂取量を毎日記録し、確保できているか確認を行っている。摂取量や嗜好等を把握しながら、体重の増減にも注意を払っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔を保つよう支援している。なるべく自分で磨くよう援助し、不十分なところは介助している。毎水曜日の夕食後は義歯洗浄剤を使用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンに合わせて声掛け・誘導を行っている。夜間オムツを使用し、日中リハパンの入居者はトイレで排泄している。排便記録表を作成しているが、自立している入居者の把握が難しいのが現状です。	職員は排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行うとともに、時間を決めてトイレ誘導をしたり、利用者の様子から声をかけたりして、トイレでの排泄を促している。 職員は利用者の排泄の自立に向けて、適切にトイレ誘導をしており、座位の保てる利用者が紙おむつ使用から、自力で排泄ができる紙パンツ使用になるなど、成果が表れている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防する為、水分を多く摂るよう声掛けしたり、廊下歩行を朝・夕行っている。毎食、野菜たっぷりの食事、牛乳やヨーグルト等の提供をしている。便秘気味の入居者には医師と相談し服薬コントロールをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴を行っているが、入浴できなかった場合は月～土曜日までいずれかの棟で入浴を実施している為、希望があれば入浴できるようになっている。自分のペースでゆっくり入浴できるよう配慮している。	入浴は週2回午前中としているが、ユニット毎に入浴日が違うため、他のユニットでも入浴することができ、利用者の希望や状況に応じていつでも入浴ができるよう支援している。 利用者が入浴を拒んだり体調が悪い場合は、他ユニットの入浴日を利用し、週2回は入浴ができるよう支援している。 柚子湯や菖蒲湯で季節を感じながら入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の時間を設けているが、本人の体調に合わせていつでも休めるよう配慮している。夜間良眠できるように日中は廊下歩行やレク・作業等を行うように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の内容を記載し、説明書も添付し誰もが把握できるようにしている。また誤訳薬防止の為、毎回チェックし与薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯たたみ、厨房へのおつかい等、皆楽しみながら行っている。軽作業やレク・ゲーム・カラオケ等積極的に参加されている。特にぬり絵は楽しみの一つになっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は屋外に散歩に出かけるが、長い距離は難しいため、駐車場で日光浴や体操を行っている。春・秋のドライブの他、家族と共に墓参りや外食に出かけたりしている。	天気の良い日は職員と利用者で敷地内を歩いたり、近くの公園に散歩に出かけたりしている。 事業所としての専用車両はないが、法人本部の車両を利用し、3月には千波湖などに花見に出かけたり、10月には町社会福祉協議会主催の「大洗健康福祉祭り」に出かけたりしている。 管理者は水戸市内に開設された同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所の車両を借り、外出の機会を増やす計画を立てている。 職員は利用者の思いを家族等に伝え、利用者が希望する場所へ家族等と出かけられるよう支援をしており、利用者と家族等は一緒に外食をしたり、思い思いの場所に出かけたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい入居者が多く、施設で管理しているが、一人だけ硬貨を何枚か所持し、自動販売機で飲み物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お金を所持している入居者は、施設内にある公衆電話で自由に電話できるよう支援している。また電話をかけたいと要望があったり、かかってきたときは取り次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下の壁に作品を貼ったり、花を飾り季節感を取り入れている。広く長い廊下は歩行訓練に利用したりソファを置いて他の館の入居者とも会話できるようくつろぎの場所になっている。	玄関や居間、廊下は広く清潔に保たれており、十分な自然光が取り入れられているほか、玄関や居間の洗面台には季節の花が飾られ、居心地のよい空間となっている。 居間に行事の写真を掲示しているほか、もみじの葉の塗り絵を1枚ずつ塗って貼った大きなもみじの木の作品を飾るなど、季節感のある飾り付けをしており、季節ごとの作品を利用者と職員と一緒に制作して飾り変えている。 居間の隣に畳の部屋を設け、家庭的な雰囲気となっている。 玄関から各ユニットに行く廊下は広く、公衆電話や飲み物の自動販売機のほか長椅子が設置されており、他のユニットの利用者と会話をしながら寛げる場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士が自由に居室に遊びにいったり、ホールや廊下に置いてあるソファでゆっくり過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・ポスター・絵等好みの物を飾り、居心地良く過ごせるよう配慮している。また家族の協力を得ながら、物干しや小物入れを持参して頂き、自立度の高い入居者には自分で整理ができるよう支援している。	居室には整理箆箆やエアコン、ベッド、洗面台が備え付けられているほか、庭に面した掃き出し窓があり、日当たりの良い環境となっている。 居室の前庭には、利用者一人ひとりが専用に利用できる畑のスペースを設けている。 洗濯物を自分で管理できる利用者は、部屋に洗濯物干しを置き、自立した生活をしている。 利用者は居室に時計やカレンダーを掛けたり、利用者の習字や塗り絵の作品を飾ったりしているほか、お気に入りの芸能人のポスターを貼ったりして、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や場所を間違えないようプレートで明確に表示している。在宅酸素療法を行っている入居者の居室はトイレやホールの近くにしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム大洗

作成日 平成26年5月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践	身体拘束に関する研修を行う。	定例ミーティングにおいて、内部研修を行う。研修報告書を全員提出後、定例会で検証し、拘束のないケアの実践に取り組んでいく。	H26.9月
2	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	「重度化した場合の対応マニュアル」を作成し、研修を行う。	定例ミーティングにおいて、意見交換を行いながらマニュアルを作成する。作成後は定期的に研修を行い、介護実践の向上に役立てていく。	H26.12月
3	35	災害対策	運営推進会議の中で、地域住民代表や行政に訓練参加を働きかけていく。	運営推進会議において、委員より当施設を含む地域全体の「自主防災計画」の提案があり、今後行政側とも連携を取りながら、話を進めていく予定である。	H27.3月
4	36	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保	写真掲示の同意書を作成し、利用者や家族の同意を得る。	外部評価後、同意書を作成し入所時に説明、同意を得るようにした。すでに入所されている方には家族の面会時を利用し同意を得ている。	H26.1月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。